

<解決しようとする社会課題とアプローチ方法>

新たな農作物の販路拡大とバイオ炭の活用を通じ、増加する耕作放棄地を減らし、地域経済の活性化を図ること

<社会課題解決に向けた事業活動と見込まれる自社への経済効果 >

【社会課題解決に向けた現在の事業活動】

市内で増加する耕作放棄地の獲得・再生事業を担うためのメンバーを配置し、耕作放棄地の所有者と調整し、耕作放棄地の確保を進めている。
耕作放棄地の再生に向けて農具を確保し、農作物や加工品の販売に向けた販路開拓を通じて、耕作放棄地の削減を行いながら、新たな農作物の販売を増やしていくことにより売上増加が実現出来ている。

【社会課題解決に向けた挑戦的な事業活動】

農作物の育成にあたっては、バイオ炭を使用するとともに、農地に散布したバイオ炭で吸収したCO2吸収量をクレジット化し、クレジット創出量〇〇t-CO2を目指す。
再生された耕作放棄地にてバイオ炭を使った「環境保全農作物」として付加価値を高めるマーケティング活動を行い、農産物及びそれらを活用した加工品の販売を行う。
これらの取組を通じて、バイオ炭の利用によるCO2の削減と自社の売上増加を図るとともに、社会課題となっている耕作放棄地を減らしていくことを目指す。

【見込まれる自社への経済効果】

農作物の販売、加工品の製造販売による売上のほか、バイオ炭で吸収したCO2をクレジット化することの収益を含めておおよそ〇〇円の収益を期待している。
また、市内の農業界にとって新たな取組を実施することで、関係各所からの注目が集まる可能性があるほか、環境にも配慮した取組を実施している企業としてのイメージアップも期待でき、従業員数の増加を見込んでいる。

【事業活動のロジックモデル】

別紙にて記載

<事業活動を通じて5年後に目指す自社の姿>

耕作放棄地の有効活用を通じて、環境保全をしながら、札幌市の経済活性化にも寄与していることを、誰もが知っている企業になっていること。

<事業活動を通じた自社の挑戦的な目標>

社会課題解決に向けた目標			
指標	分野	環境	クレジット創出量
現状	2024	年	0 t-CO2
目標	2029	年	〇〇t-CO2

企業成長に向けた目標			
指標	分野	経済	従業員数
現状	2024	年	10人
目標	2029	年	△△人

<事業活動を通じて見込まれる地域社会へのインパクト>

分野	見込まれる地域社会へのインパクト内容
環境	農業界におけるバイオ炭使用の拡大による札幌市全体のCO2吸収量の増加
社会	市内の耕作放棄地の減少
経済	耕作放棄地の減少のための活動が広がり、市内の農業活動が活発化による農業の売上の拡大

<地域社会へのインパクトに関連するSDGsのゴール>

							○			○	○	○		○		

事業活動のロジックモデル

事業活動	事業活動のロジックモデル			
	インプット 事業活動を行うために必要な資源(人材、モノ、資金)	→ 行動 事業活動を行うために必要な行動	→ アウトプット 行動によって生まれるモノ・サービス・状態	→ アウトカム 事業活動が目的としている効果
耕作放棄地の獲得・再生事業	現在 の事業活動 「耕作放棄地の獲得・再生事業」を担う ●●事業部に△△名配置	→ 耕作放棄地確保に向けた地権者との調整や農産物及び加工品販売に向けた販路開拓	→ 耕作放棄地の確保及び販路確保	→ 当該事業による雇用の増加
	現在 の事業活動 耕作放棄地再生に向けた農具等の確保			
	現在 の事業活動 加工品生産ラインスペースの確保	→ 加工品量産ラインの構築	→ 「環境保全農作物」による加工品の販売	→ 当該事業による売り上げ増加
	事業 戦略的 活動 バイオ炭の確保	→ バイオ炭を活用した農作物の育成	→ バイオ炭によるCO2吸収	→ バイオ炭使用によるCO2吸収量のクレジット化